

令和6年度

看護キャリアセンター報告

# 新人看護職員育成の取り組み

新人看護職員育成ワーキング

【教育WG】

# はじめに

新人看護職員育成WGは、各部署から1名以上の副看護師長およびクリニカルラダーⅢ以上のリーダー看護職員から構成され、看護部教育委員会の下部組織である“教育WG”を兼任し、自施設の教育プログラムを支援する役割を担っている。教育WGメンバー(教育担当者)は新人看護職員に対して、看護部教育方針に則り各部署で教育に携わっている。

今年度は2つの目標に沿って活動し、新人看護職員育成への取り組んだので報告する。

# 【新人看護職員教育目標】

- 日常生活援助の基本的知識、技術、態度を修得し、安全・確実なケアが実践できる
- チームメンバーの一員として部署における役割と責任を果たすことができる
- 社会人、組織人として責任のある行動がとれる

## 【分散教育 (OJT)】

- 配属部署の特殊性と業務内容を理解し、日常の看護業務が実践できる
- チームメンバーとしての役割を認識し、行動できる

## 【集合研修 (Off-JT)】

- 看護実践に必要な基本的知識や技術、態度を修得する

### 【入職時】

社会人、九州大学病院看護部職員の一員であることを理解し、チーム医療の実践に適応する

新採用者  
合同研修

看護部新採用者  
入職時研修

### 【診療報酬】

診療報酬上、看護職員に求められる基礎知識を習得する

重症度、医療・看護必要度

看護補助者との協働のために

### 【看護実践】

看護実践において必要な知識・技術・態度を修得し、看護ケアを安全・正確に実施できる能力を養う

看護実践研修1  
(複数領域)

看護実践研修2  
(複数領域)

移乗・移送

看護実践研修3  
(吸引)

看護実践研修4  
(口腔ケア)

看護実践研修5  
(静脈血採血)

スキンケア

看護実践研修6  
(尿道留置カテーテル)

看護実践研修7  
(静脈注射)

### 【医療安全】

安全管理の基本的知識、技術を学び、実際の看護ケアに活かす

入職時：医療安全

### 【感染管理】

感染管理の基本的知識、技術を学び、実際の看護ケアに活かす

入職時：院内感染防止

感染管理1  
(手指衛生・PPE)

感染管理2  
(針刺し防止)

医療安全・感染管理  
(CVC管理)

### 【フィジカルアセスメント】

意識、呼吸、循環管理に必要な知識を理解し、看護実践に役立てる

フィジカルアセスメント1  
呼吸と酸素療法

フィジカルアセスメント2  
心電図

### 【クリティカルケア】

一次救命処置(BLS)の知識・技術を習得し、看護実践に適用する

クリティカルケア1

### 【シミュレーション】

患者に必要な観察項目を理解し、得られた情報から異常を察知し報告できる能力を習得する

### 【フォローアップ】

入職後を振り返り、仕事の悩みや不安など情報を共有し、問題解決や今後の目標を考える

1カ月

3カ月

6カ月

12カ月

入職2年目

医療安全

がん看護

クリティカルケア2

リフレクション

部署間研修

配属部署や演習では習得が困難な看護技術を部署間研修を通じて経験し、技術習得の補完を行う

入職3年目

感染管理







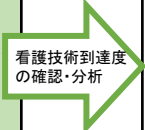
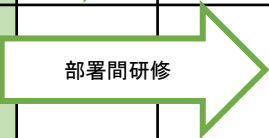
医療安全

がん看護

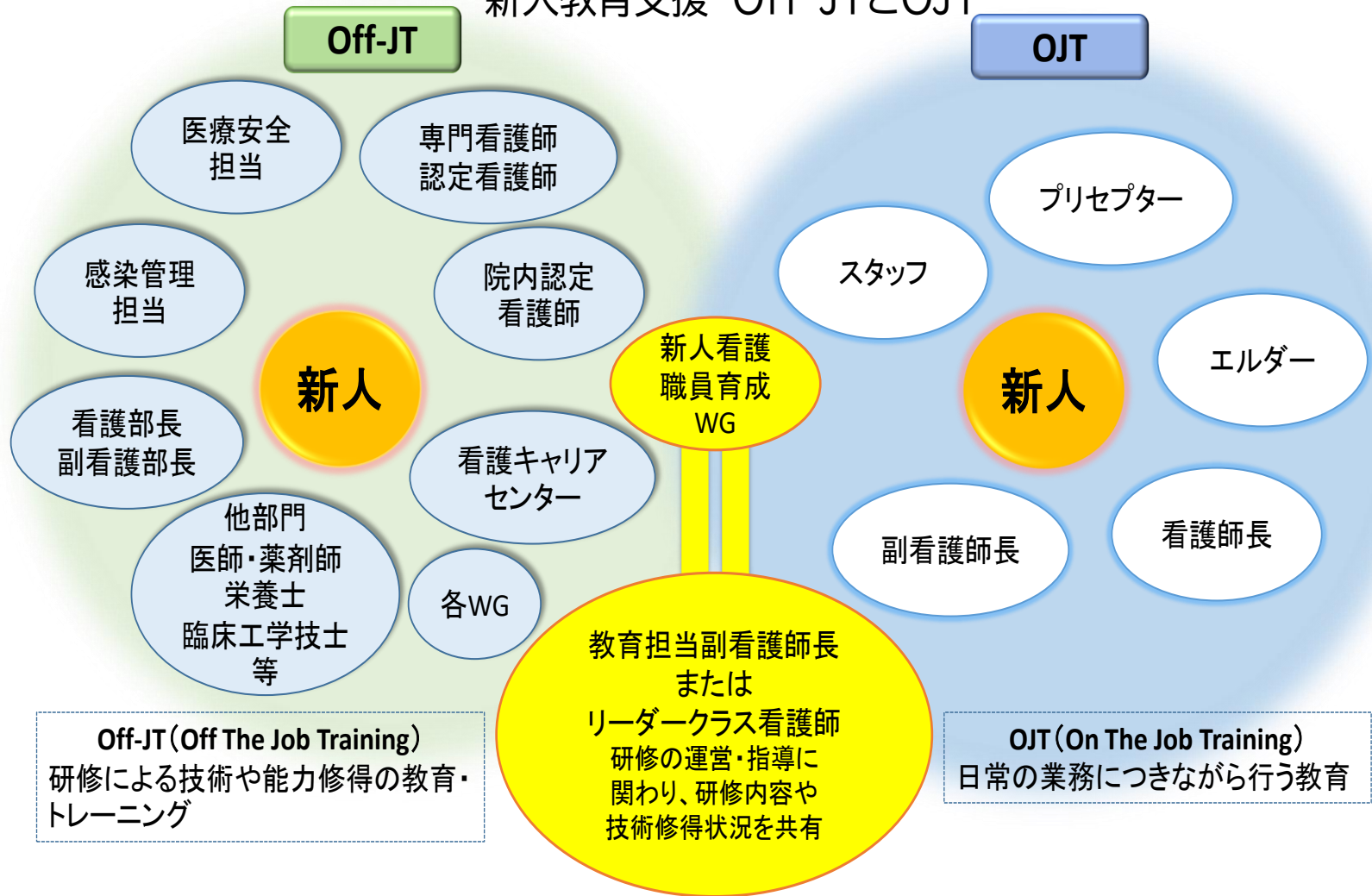
クリティカルケア3

キャリア支援

# 令和6年度 新人看護職員教育プログラム

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
分散教育 (OJT)		移乗・移送 		重症度、医療・看護必要度 	フিজカルアセスメント2	スキンケア 		医療安全・感染管理 CVC管理 				(1年以内に実施) ・輸液ポンプ・ シリンジポンプの使用法 ・看護補助者との協働 	
各部署の新人教育計画、新人看護職員の個人目標に沿ってプリセプターを中心に部署全体で新人を指導・育成													
集合研修 (Off-JT) プログラム	新採用者合同研修 看護部新採用者入職時研修	看護実践1 ・感染管理1・2 ・電算研修 ・輸液管理・接遇	看護実践2 ・感染管理1・2 ・電算研修 ・輸液管理・接遇	看護実践3 ・フィジカルアセスメント1 ・呼吸気管吸引	看護実践4 口腔ケア	看護実践5 静脈血採血	看護実践6 導尿・尿道留置 カテーテル挿入	クリティカルケア研修1 心肺蘇生法：一次救命処置	シミュレーション研修 状況把握	6カ月フォローアップ シミュレーション研修		看護実践7 静脈注射認定看護師 育成研修	12カ月フォローアップ
自己研鑽	研修内容をeラーニング教材で振り返り学習												
	看護実践、シミュレーション・トレーニング												
	ポートフォリオによる学習プログラムの可視化												
看護技術修得度評価	入職1年目	入職時チェック (自己評価)						6カ月チェック (合意評価)	 看護技術到達度の確認・分析			12カ月チェック (合意評価)	 看護技術到達度の確認・分析
	入職2年目							18カ月チェック (自己評価)	 部署間研修			24カ月チェック (自己評価)	

# 新人教育支援 Off-JTとOJT



教育WGでは、集合研修（Off-JT）とOJTの連動を図るため、  
研修企画運営や研修内容、看護技術修得状況の共有を実施

# 令和6年度 教育WGの活動目標

1. 新人看護職員育成プログラムの実施・評価を行う
2. 教育担当者として自部署の教育に関する課題を認識し、目標達成に向けて取り組むことができる

## 【活動内容】

1. 新人看護職員教育プログラムの実施・評価を行う
2. 新人看護職員が基礎看護技術を修得できるように、看護手順等を見直し、整備する

# 教育WGの活動目標

## 1. 新人看護職員育成プログラムの実施・評価を行う

### 【集合研修で実施した新人看護職員研修(教育WG運営)】

1. 輸液管理
2. 静脈血採血
3. シミュレーション研修
4. 静脈注射認定看護師育成研修

2つの研修の概要、評価等を次に示す

### 【部署内研修(OJT)で実施した新人看護職員研修】

1. 移乗・移送の技術
2. スキンケアの基礎
3. 医療安全・感染管理 (CVC管理)
4. 輸液ポンプ・シリンジポンプの使用法

# ①静脈血採血研修 概要

日程:令和6年7月10日(水)~12日(金)

研修時間:各120分

事前学習:動画講義(約50分)の視聴

部署での採血の見学

駆血帯の巻き方の練習など

研修内容:

1. 翼状針での採血デモ・採血管解説の動画視聴
2. 翼状針での採血(1名あたり2回)
3. 直針のデモ見学、採血実施(1名あたり1回)

指導者1名・受講者2~3名のグループで実施

# ① 静脈血採血研修 演習内容

- 実技評価表に基づき、翼状針2回、直針1回実施
- お互いの腕に駆血帯を巻いてみて血管を確認
- 医療安全管理ポケットマニュアルの再確認(静脈注射・採血における神経損傷: 予防と対応、患者・手元情報の確認)
- クレンチングによるK値の偽高値に関する注意喚起について伝達



# ① 静脈血採血研修 研修後のOJT

新人看護職員に限らず部署スタッフ全員が理解して実施・指導できるように各部署で教育担当者が以下を周知した

- ベストプラクティス「採血」の確認
- 腕モデルで計画的に練習し、実技評価に進む
  - ※針刺しに十分注意、必ず指導者の見守りの下実施
  - 翼状針の抜針方法(第1・2・3指の使い方)
  - ベッドサイドを想定した配置(オーバーテーブルや床頭台、PCカート)
  - 左腕・右腕、座位・臥位だとどうか
- 実践がない部署も、管理者と方針を検討し、動機付けしながら実技評価(看護技術修得)を進める

# ① 静脈血採血研修 評価

## 新人看護職員へのアンケート結果(一部抜粋)

- 安全に採血を実施できるように、声かけや環境整備など適切に行いたいと思った。根拠を踏まえて手順を一つずつ丁寧に言い、繰り返して身に付けていきたい。
- 神経損傷、迷走神経反射など、採血を行う上でのリスクを理解し、安全かつ正確に実践したい。
- 安心安全な採血が行えるように、目的の説明や声かけ、顔色や強い痛みがないか確認を行うなど、患者さんとのコミュニケーションを大切にしたい。



採血の手順の習得だけでなく患者が安心して臨めるよう配慮することや、安全に実施する上での注意点を学ぶことができていた

## ②シミュレーション研修(状況把握) 概要

日程:令和6年10月21日(月)~23日(水)

研修時間:各130分

目的:患者に必要な観察項目を理解し、得られた情報から異常を察知し、報告の方法を理解できる

目標: ① 患者の状態を予測しながら観察する  
② 観察した結果を分析・判断する  
③ 患者の状態を把握し先輩看護職員へSBARを用いて報告できる

## ②シミュレーション研修(状況把握) 演習

1. 1回目シミュレーション後、不足した観察やケアを検討する



# ②シミュレーション研修(状況把握) 演習

## 2. 2回目シミュレーション後、観察した結果を分析・判断する



収集した情報を「正常・境界・異常」に分け、分析

## ②シミュレーション研修(状況把握) 演習

### 3. SBARに添って情報を整理し、先輩へ報告する

先輩役の指導者

報告者



# ③シミュレーション研修(状況把握) 評価

## 新人看護職員へのアンケート結果(一部抜粋)

- 躓きかけた際に、指導者の方がポイントを伝えて下さったことで、議論しやすく、意見を出しやすい環境となっていた。バラバラだった情報を仲間と協力して整理していく段階がとても学びになった。
- 戸惑った時は指導者の方がすぐにサポートして下さり、安心して考えながら研修に参加することができた。グループメンバーや、他のグループからの意見から新しい視点を持つことができた。
- SBARを用いながら事例に当てはめて報告することができ、日々の業務でも活かせると思った。

## ②シミュレーション研修(状況把握) 評価

### 自己評価と他者評価

5項目について研修前と研修3～4週間後に評価

- 他者評価は、教育担当者がプリセプターやエルダーの協力を得て、事実をもとに評価
- 他者評価結果を新人看護職員へフィードバック



研修後の自己評価、他者評価では5項目すべて肯定的評価が上昇し、研修での学びを実践に活かすことができていると評価

# 教育WGの活動目標

## 2. 教育担当者として自部署の教育に関する課題を認識し、目標達成に向けて取り組むことができる

- 各部署の課題を踏まえた「各部署での教育に関する目標」「研修受講者への研修前後の支援の取り組み」を教育担当者が計画
- 新人看護職員が在籍する部署の多くは、新人看護職員を対象に「研修受講者への研修前後の支援の取り組み」を「各部署での教育に関する目標」に組み込んで実施
- 最終評価(5段階評価)で約9割が「できた」「概ねできた」と評価



教育担当者として自部署の教育に関する課題を認識し、目標達成に向けて取り組むことができた

# 教育WGの活動目標

## 2. 教育担当者として自部署の教育に関する課題を認識し、目標達成に向けて取り組むことができる

新人看護職員へのアンケートで研修前後の助言の有無を4段階評価した

- **研修前**:研修目標への助言は約7割が「ほぼ毎回助言がある」「助言をもらうことが多い」と評価
- **研修後**:学びや課題への助言は約9割が「ほぼ毎回助言がある」「助言をもらうことが多い」と評価
- 約9割の新人看護職員が、研修前後の助言が研修へ臨む意欲や研修後の実践への意欲に繋がったと回答
- 研修前後の助言により、「はっきりと“ここを学ぶ”と思える」「研修での学びを認め、次へ活かすことへ繋げてくださり、研修の達成感・実りを改めて感じる事ができた」との意見があった

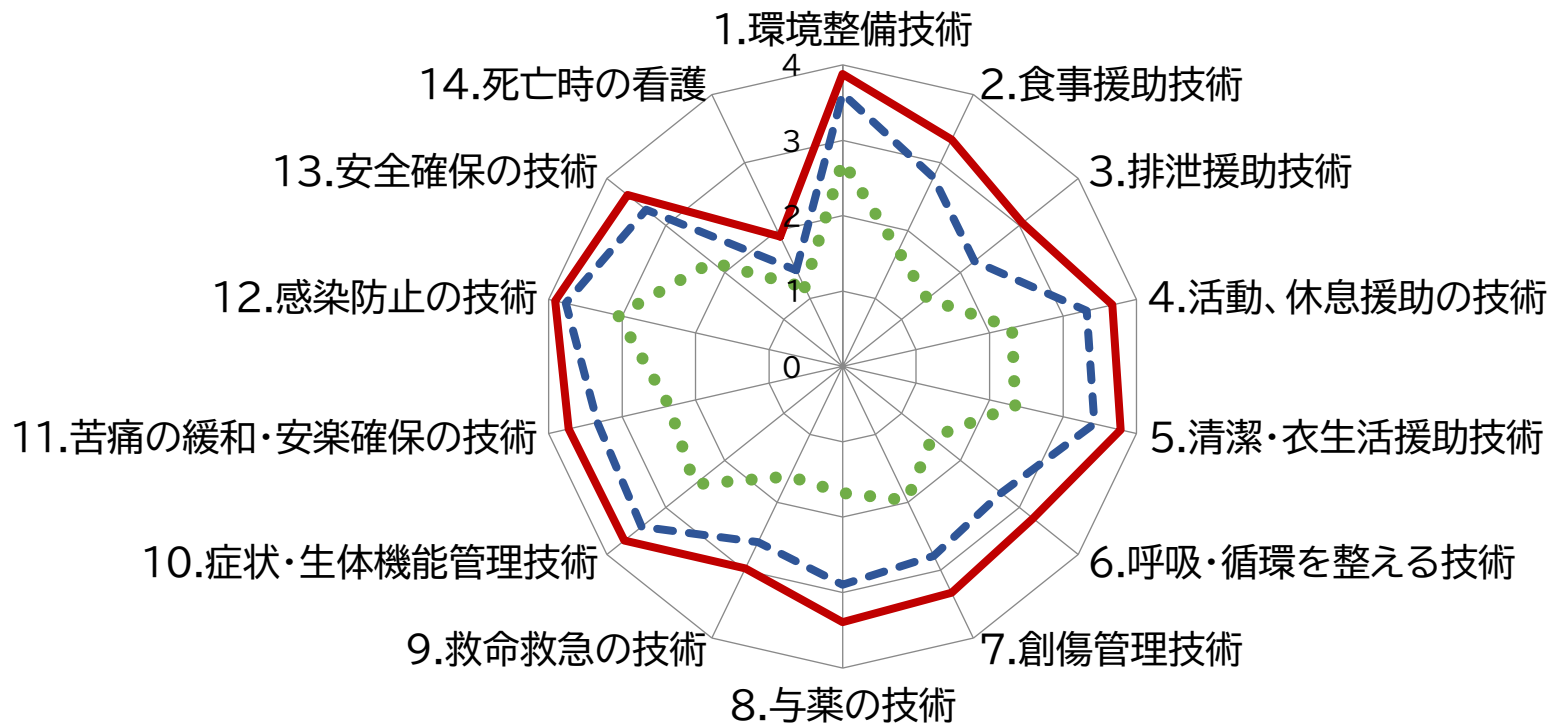


研修前の動機付けや、研修後の実践への支援の効果が窺えた

# 令和6年度 看護技術修得度結果

- 新人看護職員の入職時・6カ月・12カ月に調査
- 14領域100項目について、4段階でプリセプターとの合意評価で点数化

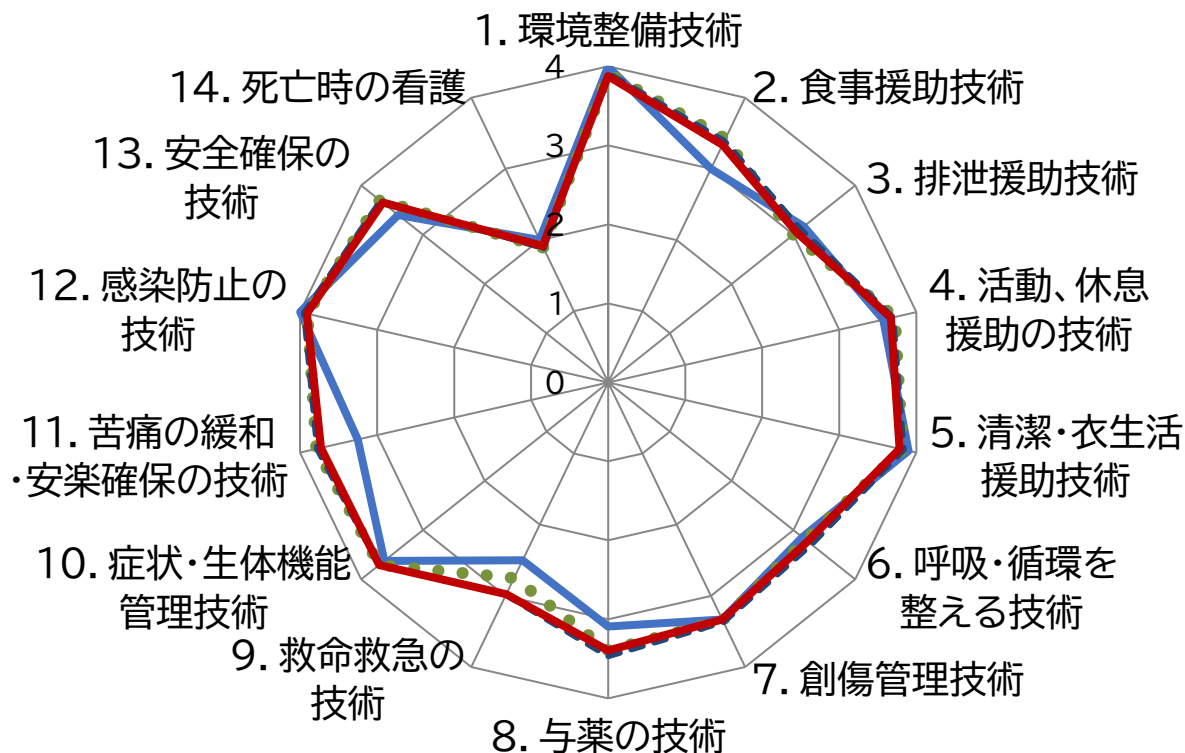
●●● 令和6年度入職時(n=144)    - - - 令和6年度6カ月(n=136)    — 令和6年度12カ月(n=134)



評価項目 4:一人のできる 3:指導のもとのできる 2:演習のできる 1:知識としてわかる

# 看護技術修得度 令和4～6年の比較(12ヵ月時点)

— 1年後の到達目標 ●●● 令和4年度12ヵ月(n=118) - - - 令和5年度12ヵ月(n=135) — 令和6年度12ヵ月(n=134)



評価基準 4:一人できる 3:指導の下できる 2:演習でできる 1:知識としてわかる

集合研修や分散研修を組み合わせた新人看護職員教育プログラム実施により、ほぼすべての領域において、例年同様1年後の到達目標を超えることができた

# まとめ

- 教育WGグループ活動として、「輸液管理」「静脈血採血」「シミュレーション研修(状況把握)」「静脈注射認定看護師育成研修」の研修を計画・実施し、新人看護職員の看護技術修得に繋がった。
- 今後も新人看護職員への研修前後の支援を継続し、部署全体で新人看護職員を支援する体制を整え、安全で質の高い看護が提供できる臨床実践能力と社会人基礎力を備えた新人看護職員の育成に尽力 していきたい。